

第4学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年11月19日(水) 6校時

児 童 4年2組 18名

授業者 高橋 寛之

1 単元名 きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう

2 学習材名 「風船でうちゅうへ」(光村図書4年下)

3 単元の目標

- (1) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。
[知識及び技能] (2)ア
- (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。[思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
- (3) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)カ
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

4 単元について

(1) 子どもの実態

子ども達はこれまでに、4年生の「アップとルーズで伝える」で筆者の考えを読み取り自分の考えを発表する学習に取り組んだ。また、「未来につなぐ工芸品」では、段落相互の関係を捉えながら、中心となる語や読み取った情報を整理、要約することに取り組んだ。これまでの学習を通して、文章を読むことについては理解することはおおむねできるが、感想や考えをもって書いたり発表したりすることにはできる児童とできない児童の二極化が顕著になっている。

(2) 学習材について

本教材は、風船を使って、宇宙と地球の撮影に成功するまでの過程が書かれている。風船を使って教科書に載っている写真を撮影できたということへの驚き、試行錯誤を重ねて問題解決を図る筆者の姿勢など、子どもの興味を引く文章である。読み手の興味に応じた様々な読み取り方が可能であり、自分が興味をもった内容を要約することで、それぞれの感じ方のよさを認め合い、読みを深めることのできる教材である。

(3) 指導にあたって

単元に位置付ける言語活動

興味をもったところを中心に要約して紹介する文章を書き伝え合う。[思考力、判断力、表現力等] C(2)ア

文章を読んで教材文を紹介する文章を書くために、それぞれの子どもが興味をもったことから紹介したい内容を選択するように促す。そして、興味をもった内容が同じグループで、着目すべき言葉や着目した言葉等について話し合いながら要約し、紹介文を書く活動を設定する。紹介文が完成した後は、選択した興味が同じグループで読み確かめる。そして、異なる興味の子ども同士で互いに読み合い感想を伝え合う。そうすることで、子ども一人一人の感じ方の違いや紹介文のよさに気付くことができると考える。

① 手立て1 目的をもって学びに向かう工夫

ア 興味・関心や目的を意識して文章を読み、他者に伝えようとする意欲を高めるようにするために学習課題を明確にする。

イ 具体的な内容で振り返ることができるように、振り返りや感想の視点を明確にする。

② 手立て2 言語活動の質を高める工夫

ア 文章から必要な情報を的確に抜き出し、要点を整理して伝えることができるようにするために視点を提示する。

イ 文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつことができるようにするために、興味・関心の中心が共通するグループ編成にして文章を読み確かめ合う。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 考えとそれを支える理由や事例、全体となる情報と情報との関係について理解している。(2)ア	① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 C(1)オ ② 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 C(1)カ	① 進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って紹介する文章を書き伝え合おうとしている。

6 単元の指導計画（全8時間扱い）

次	時	学習活動	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点	【評価】〔評価方法〕
とらえよう	1	○ 教科書のリード文や題名を読み、風船で何をしようとしたのか予想する。 ○ 「風船でうちゅうへ」を読み、「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。	・ 写真も手掛かりに、教材文への興味・関心を高める。 ◆ 興味・関心や目的を意識して文章を読み、他者に伝えようとする意欲を高めるようにするために学習課題を明確にする。（手立て1） ・ 何に興味をもったか、どうしてかを考えることで問いや課題意識を引き出し、興味に沿った要約を行って、紹介する文章を書くという学習につなげる。	
	2	○ 興味をもったところをはっきりできるように文章の大体の内容を確かめる。	・ 「もっと読もう」も併せて読み、自分が最も興味をもったことを明確にする。	
ふかめよう	3	○ 「初め」「中」「終わり」のまとまりを確かめ、「初め」と「終わり」から興味に沿って大事な言葉や文を書き出す。	・ 「初め」「終わり」の対応関係を確かめる。 ・ 興味の中心が同じグループ同士で交流する。 ◆ 具体的な内容で振り返ることができるように、振り返りや感想の視点を明確にする。（手立て1）	【知識①】打ち上げの結果から分かったことや、筆者が考えたことを捉え、自分の興味に沿って大事な言葉や文を書き出しているか確認する。 〔発言・記述〕
	4	○ 「中」を読んで、風船の装置の実験の特徴と打ち上げた結果を捉える。	・ 打ち上げた結果の原因と対策に分けて整理する。また、観点として「風船の数」「地上とつながひもの有無」「カメラの特徴」を示す。	
	5	○ 「中」を読んで、打ち上げた結果から筆者が考えたことを捉える。 ○ 「中」から、興味をもったところを選び、大事な言葉や文を書き出す。	・ 教科書「言葉に着目しよう」を参考にしよう促す。 ◆ 文章から必要な情報を的確に抜き出し、要点を整理して伝えることができるようにするための観点を提示する。（手立て2）	
	6	○ 興味をもったことに沿って、要約する。 ○ 要約した文章を読み合う。	・ 要約の方法を明示し、どのように重要な情報を抜き出して伝えるか明確にする。 ・ 友達と読み合い、興味をもったことによって、要約が違うことに気付かせる。	
まとめよう	7 本時	○ 紹介文の構成を確かめる。 ○ 興味をもったことに沿って紹介文を書く。 ○ 興味・関心の中心が共通するグループ同士に分かれて、書いたことを読んで確かめ合う。	・ 教科書「しょうかいする文章の例」を参考に示す。 ・ 前時にまとめた要約を活用し、紹介文を作成する。 ◆ 文章を読んで理解したことに基いて感想や考えをもつことができるようにするために、興味・関心の中心が共通するグループ編成にして文章を読み確かめ合う。（手立て2）	【思考①】自分が興味をもったことに沿って、紹介文を書いているか確認する。〔記述〕
ひろげよう	8	○ グループで紹介文を読み合い、感想を伝え合う。 ○ 単元の学習を振り返る。	・ 興味の中心が多様になるようグループを編成して、交流する。 ・ 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返らせるとともに、「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を確認させる。	【思考②】紹介文を読み合い、それぞれの興味によって、内容や表現のしかたが違っていることに気付いているか確認する。〔発言・記述〕 【態度①】進んで紹介する文章を伝え合おうとしているか確認する。 〔観察・記述〕

7 本時の指導

(1) 目標

文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつことができる。

(2) 本時の評価規準

文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもっている。【思考・判断・表現①】

具体的な子どもの姿	Bに至るための支援
文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつて紹介する文を書く。	- 前時にまとめた要約の文を見直し、何の部分に使えるかを明確にする。 「しょうかいする文章の例」を参考にすることで、自分が書きたい紹介文の構成を考えるように促す。 - 書き出しの例を示す。
授業での姿 「風船でうちゅうへ」は、筆者の岩屋圭介さんが何度も失敗してもあきらめずに風船を使ってうちゅうをさつえいした話です。 (中は第5時の要約) わたしは、筆者があきらめずにチャレンジしたことに感動しました。わたしも好きなことを見付けて、あきらめずにやっていきたいです。	

(3) 展開

	学習活動 ・ 子どもの反応	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点 評価[評価方法]
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 自分のきょうみにそって、「風船でうちゅうせんへ」をしょうかいする文を書こう。	
展開 32分	3 紹介する文の各段落の構成や書き方を確認する。 「初め」…何の話かを紹介 「中」…読んで面白かったことや感動したところを要約 「終わり」…本文を読んだ感想 4 「風船でうちゅうへ」の紹介文を書く。	「しょうかいする文章の例」を参考に、構成や書き方を確かめる。 「何の話か」「要約」「感想」のそれぞれのつながりを考えて、前時にまとめた要約の文を修正したり、「何の話」「感想」の内容を考えたりするよう確認する。 - 自分が興味をもったことを家の人に紹介することを意識して書き始められるようにする。 【思考・判断・表現①】[記述] - 文字数の目安は400字程度であるが、実態に応じて進める。 - 書けない子どもには、本文で興味をもったところがどこかを具体的に聞いてまとめさせる。また、書き出しを示したり、言葉のつながり方をアドバイスしたりする。全体で共有したほうがよい内容の場合には、取り上げて全体に伝える。
終末 8分	5 興味の中心が共通するグループごとに書いた紹介文のつながりが妥当か確かめ合う。	◆ 文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつことができるように、興味・関心の中心が共通するグループ編成にして文章を読み確かめ合う。(手立て2)
	6 学習の振り返りをする。 7 次時の見通しをもつ。	◆ 具体的な内容で振り返ることができるように、振り返りの視点を明確にする。(手立て1) 次回はグループで紹介文を読み合うことを伝える。

〔期待する振り返りの例〕

- 紹介する文を書くときには、自分が興味をもったことを中心に言葉を選んで書くことを学びました。
- 興味をもったことが同じでも、紹介文で取り上げた言葉や文が違ってくるのが分かりました。